



校長通信『道標(みちしるべ)』 第27号

令和4年3月1日 第62回卒業証書授与式

福岡県立若松商業高等学校 校長 谷川 陽一



餞 (はなむけ) のことば — 第62回卒業生の皆さんへ —

第62回卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

卒業生の皆さんは、学校のリーダーとして全校生徒をまとめ、各学校行事とも大成功へと導きました。

体育祭は日程などの変更にもめげず、己に打ち克ち、心に残る素晴らしい学びを実現しました。若商祭は昨年度から原点回帰を図り、特別活動の本来の意義を踏まえ、文化的行事の目標である「学習活動の成果の発表」をとおして、全校生徒が文化や芸術に親しむ気持ちを培うことに尽力しました。

卒業生の皆さんが正(まさ)に、これから本校の進むべき道の「道標」を指示(さししめ)したことに深く感謝します。

さて、本校を巣立つ皆さんに餞の言葉を贈ります。「行不由徑」(こうふゆけい) 一行くに小道によらず — (論語) 卒業アルバムにも揮毫(きごう)しました。「安易な道を選ばない。堂々と大道を歩め。」という教えです。

これは、仕事でも人生でも困難にぶつかれば、そこを避けて通りたいと思うのが常です。けれども、あえて正攻法で臨むことが大切です。満足する結果は出ないかもしれません。うまくいかないこともあるでしょう。しかし、近道や奇を衒う(きをてらう)方法であれば、いずれ行き止まりにぶつかります。なぜなら卑怯な方法では周りの人から決して尊敬されないからです。正攻法で挑めば失敗しても諦めがつかず、なにより人として大切な「誇り」が培われ、次の機会にも正々堂々と物事に臨む「潔さ」(いさぎよさ)が生まれます。

周りの人は そのような姿に 魂を揺さぶられます。そして、多くの人たちの協力により、困難なことも乗り越えることができるようになるのです。このことを「徳不孤」(とくふこ) — 徳は孤ならず — と言います。

卒業生の皆さんが2年生の時、創立60周年記念として作成し、体育祭にて全校生徒で歌った応援歌にも、この「潔いところ」を育んでほしいとの念(おも)いが込められています。

最後に卒業生の皆さん。

君たちの高い理想と志、それを実現させるためのたゆまぬ努力。

そのすべてを母なる花房山は久遠(くおん)に温かく見守っています。

濤(なみ) 音高き 玄海の 潮に育ちし 精鋭よ
鍛えた技は 潔し 練られた技は 潔し
標(しるべ)を築け 強きころの 若商健児

— 創立六十周年記念 応援歌から —

令和3年度 第62回卒業証書授与式 校長式辞